

2012年10月12日（金）

茶臼岳～姥ヶ平の紅葉

レポート by 熊本

那須岳の紅葉狩は那須街道の渋滞を避けるため12日（金）に企画した。2，3日前から新聞やTVで見頃になったとの報道があり楽しみの参加したのは、布目さん、能勢さん夫妻、根岸さんと熊本の4名。

青空に恵まれ申し分なしと思っていたが・・・



なるべく早く行動したいと 6:40 東京発の「やまびこ 203 号」で那須塩原に向かう。



東京駅を発車したときには車内には布目さん、熊本の他の二人だけだった。
大宮から能勢夫妻が乗車し、根岸さんは一本後の電車で追いかけてくる。



小山から宇都宮付近では一面濃い霧で視界が全くなかったが、宇都宮を過ぎて霧が晴れ、男体山（左）と女峰山（右）が良く見えた。



那須塩原に近づくと那須五山が見え出し、茶臼岳、朝日岳は赤く染まっており紅葉している様子が見れる。



那須塩原から那須ロープウエー行のバスに乗る（8:30）

途中、バスの運転手からの情報で強風のため現在ロープウエーは運転中止の連絡が入った。

心配した渋滞もなく、定刻 9:30 にロープウエー山麓駅に到着。



バスから降りた途端、体が吹き飛ばされそうな強風にあおられ転倒しそうになり、ロープウエー駅の構内に飛び込む。

勿論、運転は中止。

風速 25m 以上でロープウエーは運転中止になり、現在山頂付近は 30m 近い強風とのアナウンスがあった。コル（鞍部）の峰の茶屋あたりは 40m くらいの風だろうと係りの人は言う。

ロープウエー山麓駅舎からは朝日岳の山肌が赤く染まっているのが見える。



兎に角、峰の茶屋が見れる尾根まで行ってダメなら引き返そうと決心していく。青空ではあるが、強風のため体感温度は5, 6度くらいの感じで雨具を防寒具として装備し写真を撮ってスタートする。



樹林帯に入ると風の勢いは弱まり、尾根に出るまでの束の間の静かさだ。



ロープウエー山麓駅から約25分で、尾根に出る。ここは茶臼岳、朝日岳の谷間となって風の通り道になっており、常時風が吹いている。正面の朝日岳の山肌は紅葉で燃えているようである。



右手に朝日岳、左手に茶臼岳を従えて、正面の峰の茶屋を覗き見る。



風が強く、かなりな前傾姿勢で、ストックに体重を寄せ、足はガニマタで小幅で歩くのが強風時の安全な歩き方である。



ふもとの街は青空に囲まれ穏やかなの
うに見える。



去年、根岸さんは何処で滑落したの？



何とか山麓駅から約1時間で峰の小屋に
到着した(11:03)。

風はやはり強いが 40m と言うことはな
く、多少風は弱まったのかもしれない。
茶臼岳を右から巻きながら中腹を回っ
て「牛首」まで行くことにする。



ロープウエーの反対側にあたり、此方側は其処ここで噴煙があがっており活火山を目の当たりに見る。



噴煙の硫黄で白、黄色に染まった登山道になる。



峰の茶屋から 20 分ほどで眼下に白い砂地の姥ヶ平が見えてきた。



振り返ると大きく口を開けた噴火口から濛々と多量の白い噴煙を上げている。



「牛首」から姥ヶ平に下る。



姥ヶ平に近づくに従い、紅葉の色は鮮やかになってきた。



紅葉の中に立ち枯れの木が何とも印象的だ。



紅葉に囲まれ頬も緩む。



紅葉を映像に収めようとカメラに集中。



姥ヶ平の途中で記念写真。



紅葉のトンネルを行く。



自然と笑みが・・・



もう少しで姥ヶ平だ。



ナナカマドが真っ赤に・・・





姥ヶ平から見た紅葉の茶臼岳(11:55)。



紅葉に包まれて、昼食タイム。



噴煙上げる茶臼岳をバックに記念写真。



取り敢えず、牛首まで戻り、ロープウエーが運行しているか確認する。



牛首からロープウエー山頂駅まで 30 分の近さなのだが、やはり未だ運行中止のようで、ロープウエー山頂駅方向からの登山客は来ないようで、仕方なく、峰の茶屋戻る。



朝日岳の尾根が見えてくれば、峰の茶屋は近い。



峰の茶屋は相変わらず強風が吹き荒れ、
小屋を風除けで小休止。



朝日岳の紅葉を目に焼き付ける。



樹林帯の中でエゾリンドウを発見。



帰りの黒磯駅に向かうバスも渋滞はなかった。14:40 に田代南（お菓子の城）で下車し、源泉かけ流し日帰り温泉「那須山」でタップリ 1 時間入浴休憩しタクシーで黒磯駅へ。



15:17 黒磯始発の電車で運良くボックス式シートを占有して宴会をしながら帰路につく。

朝日岳は山が燃えているような、また姥ヶ平の紅葉の上に噴煙を上げる茶臼岳は、言葉に現せられないほど素晴らしさがあり、風速 25m を超える強風を耐えてのものであり感激も格別であった。